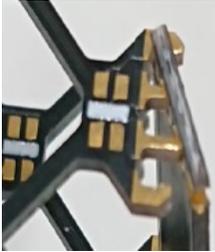
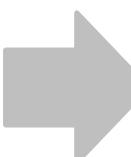
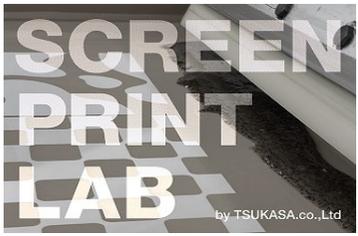


2022年度最終審査結果 受賞テーマとデザイン提案

| | | |
|---|---|--|
| <p>テーマ</p> <p>半田付け不要の基板ジョイント導通技術 企業：有限会社ケイ・ピー・ディ（葛飾区）</p> | <p>最優秀賞</p> | <p>提案</p> <p>プリント基板の新しい使い方を提案するサウンドプロダクト 提案者：田村匡将、元木龍也、高橋窓太郎、本杉一磨（デデデ）</p> |
|  <p>高密度設計や複雑な形状での基板設計を得意とする企業による、半田付けを必要とせず基板の接合のみで電流を流せる技術のエントリー。企業は大学キャンパス内に事務所を有しており、産学共同研究によるものづくりや他業界との協働経験も豊富に有している。</p> |  | <p>半田付け不要の基板ジョイント導通技術から、歯車の凹凸がかみ合う音が鳴る仕組みを提案。</p>  |
| <p>テーマ</p> <p>大型シルクスクリーン印刷による膜厚を出した平滑な大判フィルムの作成技術 企業：司産業株式会社（板橋区）</p> | <p>優秀賞</p> | <p>提案</p> <p>スクリーン印刷による新たな魅力の開発 提案者：大木陽平（株式会社サイド）</p> |
|  <p>世界的メーカーのパートナーとして、長年培ってきたシルクスクリーン印刷技術と品質に強みを持つ企業。大判フィルムにも対応する量産体制と、繊細なフィルムの取り扱いに長けた職人の技術が多様な素材に加工可能なシルクスクリーン印刷の特性をいかしたデザイン提案の実現を支える。</p> |  | <p>スクリーン印刷の可能性を引き出すための、研究と実験、開発と発信を目的としたプロジェクトを提案</p>  |
| <p>テーマ</p> <p>貼箱製造で培った技術及び加工設備 企業：株式会社泰清紙器製作所（練馬区）</p> | <p>優秀賞</p> | <p>提案</p> <p>貼箱製造の技術と設備を活用した箱だからできる玩具の提案 提案者：泉伸明（株式会社キュー）</p> |
|  <p>貼箱製造を得意とする、老舗紙器メーカー。多様な生産設備と製品試作の専門チームを保有しており、小回りの効く生産体制に強みを持つ。BtoB、OEM製造で培った経験と技術を基に、新たなビジネスモデルの構築に繋がるような取り組みに挑戦していきたいとの意欲を持つ企業。</p> |  | <p>企業の持つ多種多様の加工技術と用途に合わせた素材選び、設計・開発力を駆使し、箱にコンテンツを掛け合わせることで貼箱の新たな価値を創造。貼箱だからできる、環境に配慮した紙製玩具の提案。</p>  |

2023年度 東京ビジネスデザインアワードの流れ(予定)

| | |
|---|---|
| <p>企業からテーマを募集 (4月13日～6月22日)</p> | <p>都内ものづくり中小企業から、自社保有の高度な技術や特殊な素材などを「テーマ」として募集。</p> |
|  | |
| <p>テーマ発表 (9月)</p> | <p>審査委員会が10テーマ程度を選定し、HP等にて発表。</p> |
| <p>デザイナーからの提案募集 (9月～10月)</p> | <p>選定テーマに対し、デザイナーがあらゆる可能性を検討し、新たな用途開発を軸とした事業全体のデザインを提案。</p> |
|  | |
| <p>一次審査・二次審査 (11月)</p> | <p>一次審査・二次審査を経て、テーマ毎に企業とデザイナーのマッチングが成立したものを「テーマ賞」として選出。</p> |
|  | |
| <p>最終審査・表彰式 (2024年2月)</p> | <p>テーマ賞の中からデザイナーの公開プレゼンテーションにより、「最優秀賞」・「優秀賞」を決定。</p> |